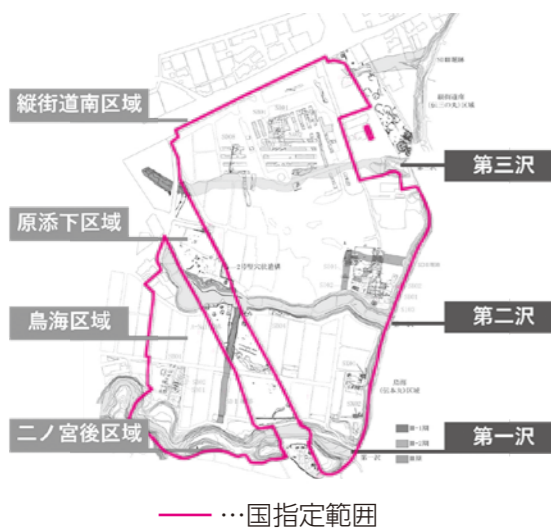


■鳥海柵の位置



■「鳥海柵」とは
鳥海柵は、11世紀前期から中期に奥六郡（一関市から盛岡市にかけての地域）を治めた豪族・安倍氏が築いた12柵の一つです。柵とは、一般的に防御のためのとりでや城であると言われており、現在、安倍氏12柵の中で唯一場所が特定されているのが鳥海柵跡です。

前九年合戦（1051・62年）を記録した「陸奥話記」には、当主・安倍頼良（後「頼時」と改名）が厨川柵（盛岡市）で負傷した際、わざわざ鳥海柵に戻り亡くなったこと、陸奥守兼鎮守府将軍・源頼義が、出羽国豪族・清原氏

の加勢により鳥海柵に入った際、「なかなか入ることが出来なかった鳥海柵にやっと入ることが出来た」と感動したことが記されており、鳥海柵は安倍氏の重要拠点であったと考えられています。

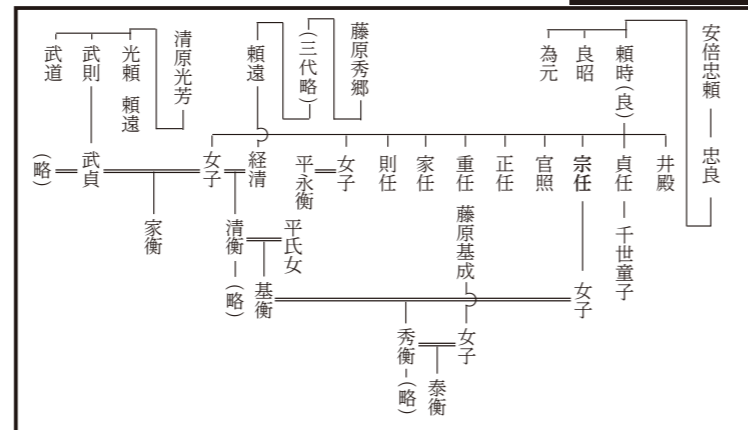
■鳥海柵跡の位置と構造
鳥海柵跡は、金ヶ崎町西根縦街道南、原添下、鳥海、二ノ宮後に所在し、JR金ヶ崎駅から南西へ約1.5kmに位置します。本史跡は、夏油川によって形成された六原扇状地（金ヶ崎段丘）の南端に立地し、史跡の東側に北上川、南側には胆沢川が流れ、胆沢川を挟んだ南東約2kmには坂上田村

麻呂が築城した鎮守府・胆沢城跡があります。

鳥海柵跡は三つの自然の沢でできた谷によって四つの台地に分割されています。沢は南から第一沢、第二沢、第三沢、台地は二ノ宮後区域、鳥海区域、原添下区域、縦街道南区域と呼称しています。

川や沢（谷）、段丘崖などの自然地形を巧みに利用し、11世紀中頃には人工の堀や柵列などの工作物で囲まれた敷地に大型の建物跡や櫓状の建物跡などを複数配した防御性のある軍事的な拠点となっていました。

安倍氏略系図



特集 国指定から10年 史跡 鳥海柵跡



11世紀、奥六郡を支配した豪族・安倍氏が築いた拠点の1つ「鳥海柵」は、「国指定史跡・鳥海柵跡」となり、ことしで10周年を迎えます。

平成25年10月17日の国指定以降も発掘調査が行われ、少しずつその構造や性格が明るみになってきました。

今回は、世界遺産となった奥州藤原氏の平泉文化へとつづく貴重な前史として注目されている、金ヶ崎町が誇る大切な文化遺産・鳥海柵跡を紹介します。

1 史跡内に設置した国指定を示す標柱 2 上空から望む鳥海柵跡 3 令和2年度発掘調査で確認された大規模な堀跡 4 平成22年度に出土した香炉蓋、唾壺、墨書土器・五保【町指定文化財】